

第七十四回帝國議會
衆議院

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計
及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案 委員會會議錄(速記)第三回

會議

昭和十四年二月二十日(月曜日)午後一時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 高橋壽太郎君

理事大島 寅吉君 理事太田 理一君

理事塚本 三君 理事立川 平君

佐藤 興一君 庄司 一郎君

丸山辨三郎君 藤本 捨助君

椎尾 辨匡君

出席政府委員左ノ如シ

文部參與官 野中 徹也君
文部省專門 男爵山川 建君
學務局長

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)

○高橋委員長 是ヨリ前回ニ引續キ會議ヲ開キマス

○椎尾委員 名古屋ノ帝大ヲ建設スル地元ノ希望、昨年ノ建議等ニ於キマシテモ、時局ノ影響並ニ現在ノ大學ノ思想問題ニ關聯シマシテ、サウ云フコトノ改善ノ途ヲ求メマスルト、此ノ際新シイ大學ニ新シイ立場

ヲ以テ進メ行クコトガ比較的容易デ、適當ナコトデアアル、東京帝大ノ如キ長イ歴史ヲ有シ、其ノ上ニ建設サレテ居ルモノヲ改善スルト云フコトハ、必要デハアルガ、容易デナイ、此ノ意味ニ於テ名古屋帝大ノ如キ新シイ大學ヲ建設スルコトヲ希望サレタ

ノデアリマスガ、此ノ地方ノ希望ナリ建議ニ對シマシテ、今度ノ大學ノ實際方法トシテ、何處マデ其ノ意思ガ採用サレテ居ルノデアリマスカ、先ヅソレカラ御伺致シマス

○山川政府委員 只今ノ御尋ニ御答致シマスガ、是ハ醫學部ニ依リマシテ名古屋帝國大學ヲ創設致スコトニナツテ居ルノデアリ

マス、尙ホ十四年度カラ開始致シマスモノハ醫學部ダケデアリマシテ、十五年度ヨリ理工學部ニ付キマシテハ學生ヲ募集致シマシテ授業ヲ開始致スコトニ相成ツテ居ル譯デアリマス、尙ホ名古屋ノ帝國大學醫學部ハ、今日ノ名古屋ノ醫科大學ヲ組織ヲ變更致シマシテ、醫學部ト致スコトニ相成ツテ

居ル譯デアリマス

○椎尾委員 醫學部ト理工學部ガ順次開設セラレルコトハ固ヨリ諒承シテ居ルノデアリマス、唯之ニ關シマシテハ、少シク思想

問題ニ入リマスルガ、過去ニ於キマシテ日本憲法ノ取扱ガ法學部ニ於テ問題ニナリ、又最近ノ經濟情勢ヲ動カシタ色々ノ問題ガ關聯シマシテ經濟學部ニ起ツテ居リマスル

ガ、斯様ナ思想問題ノ起リマスルマダ初期、或ハ十年モ前カラ致シマシテ、日本ニ於テ是等ノ思想ヲ指導シテ行クベキ根據ハ大學デナケレバナラス、實質カラ致シマシテモ、國情カラ致シマシテモ、ソレハ國立ノ大學ガ其ノ責ヲ負ヒ、又其ノ方面ニ進出シナケレバナラス、然ルニ日本ニ於キマシテハ大學ガ全體トシテ思想問題ノ指導ト云フコトヲ致シテ居リマセス、僅ニ文學部ノ中ニ二三ノ關聯スル學科ガアリマスルケレドモ、教育倫理等ノ部ニ致シマシタ所デ、教育技術ヤ西洋倫理ノ紹介デアリマシテ、眞ニ日本ヲ將來指導シテ行クベキ思想ノ研究ニナツテ居ラスノデアリマス、ソレ故ニ其ノ種ノ研究ノ講座開設並ニ講座ニ依ツテ出來ナケレバ特殊ノ研究機關ヲ開設スルコトヲ求メマシタ結果ガ、一二ノ講座ガ増設サレマシテモ、結局文學部ニ附設サレル程度カ、研究所ガ別ニ出來マシタガ、是ハ又私申上ゲルマデモナク赤化思想ヲ指導スル爲ニ直轄

スル專門學校等ニ於テ種々ノ講習ヲ開カレテ、東京、京都、九州三大學カラ特ニ選任サレタル教授ニ依ツテ講義セラレタニ拘ラズ、毫モ指導力ガナイト云フ所カラ、ソレ等ノ方方ノ要求ニ依ツテ研究所ヲ設ケルト云フコトニナツタニ拘ラズ、ソレガ開設セラレマシタ場合ニハ、ソレ等ノ人ガ寧ロ之ヲ忌避致シマシテ、ソシテ現在ノ如キ方々ガ其ノ任ニ當ツテ居ルコトニナツテ居リマスガ、サウ云フ點カラシテ、大學ガモツト積極的ニ國民ノ思想指導ノ源泉ノ研究ヲスルト云フ自覺、努力ガナケレバナラスモノダト思フノデアリマス、而シテソレハ現ハレテ來タ問題ノヤウニ、法學部ヤ經濟學部一部ノ問題デハナイノデアリマス、憲法ニ關シ、經濟事情ニ關シテ、サウ云フ方面ガ先ヅ以テ現ハレテ參リマシタケレドモ、元々唯物的ナ個在的ナ近代ノ泰西思想ヲ基トシテ行キマスル所ト、此ノ日本ノ全一ナ生キタ進ミマシテ行キマスル國運ノ立場トハ喰違ヒガアルノデアリマスルカラ、日本の研究ヲスル時期ガ一日モ早く來ナケレバナラスノデアリマシテ、日本の研究ヲスルト云フコトニ於テハ、決シテ文學

付託議案

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)

部、法學部、經濟學部ダケノ問題デハナイ、ヤハリ如何ニ日本ノヤウナ農地ノナイ農業ニ適當ナ處ニ世界一ノ集約農業ガ發達シテ相當ノ成績ヲ舉ゲテ居ルカト云フコトダケカラ見マシテモ、農學部ニ日本の研究ト云フモノガ非常ニ必要デアリ、サウ云フ學部ダケデナク、同一ノ意味ガ商工方面ニ於キマシテモ、醫學ニアツテモ、亦殊ニソレ等ノ根本問題ニナルノハ理學部デアルト存ズルノデアリマス、固ヨリ理學的ノ學術ハ超國家的デ、國際的權威ヲ持チ、平等性ヲ持ツベキモノデアリマスルケレドモ、併シナガラ其ノ研究ヲ泰西ノ事實ヲ基トシテ歐羅巴デヤリマスルノト、日本ノ事實ヲ基トシテ日本デヤリマスルノトハ、自ラ違ツタ立場ガ出來ルノデアリマス、即チ當面ノ問題トシテハ日本ノ事實ヲ基トスル日本の理學ノ建設ガ先ヅ行ハレテ、理學上ノ解決サレザル幾多ノ問題ヲ解決シテ、既ニ研究サレマシタル泰西ノ理學ト結び付イテ、茲ニ新シイ世界理學ガ建設サルベキモノデアルト思ハレルノデアリマスルガ、サウ云フ意味ニ於テ是非トモ理學部ニ於テモ單ナル從來ノ理學ノ分野ノミナラズ、固ヨリ日本ノ理學者ノ中ニハ權威ノアル獨創的研究ヲ進メラレタ方ガ多々アリマスルケレドモ、特

ニソレヲ日本的ニ研究セラレマシテ、ソシテ其ノ基礎ノ上ニ立ツテヤルナラバ、必ズソレハ日本ノ國體ノ基礎ヲ究明シ得ルモノダト存ズルノデアリマス、日本ノ國體ハ單ニ文學史的の方面ヤ、法制方面ニ於テノミ論ズベキモノデハナクシテ、日本ノ國體ハ日本ノ持ツテ居リマスル自然史的の根柢ノ上ニ發達シタモノデアルト見ルベキ點ガアルト存ズルノデアリマスカラ、サウ云フ點ハ理學部ノ方デ十分ニ究明サルベキモノデアリマスガ、國體ヲ理學的ニ説明ヲ下スト云フコトハ、再三理學部ヘ行ツテ話ヲシマシテモ、理學ト國體ナドハ關係ガナイ、斯ウ云フヤウナ議論マデ聞クコトガ多カツタノデアリマス、最近ハ學者ガ少シサウ云フ方面ヲ考ヘテハ呉レラレマスケレドモ、是等ノ潮流ニ對シマシテ、今度ノ理學部、工學部ニ於テハ單ニ從來ノ講座形式ナドニ依ラナイデ、必ズソコニ此ノ時代ニ應ジ、此ノ要求ニ應ジテ、サウ云フ施設ガアルベキモノダト考ヘルモノデアリマスカラ、其ノ點ニ付テ醫學部、理學部、工學部ト云フモノガ、ドチラカト云ヘバ國體トカ、現在ノ日本ノ問題トカ云フコトニ關係ノナイヤウニ扱ハレルト云フコトガ大キナ間違ヒデアラカラ、其ノ關係ノナイヤウニ扱ハレサウナ

所ニ、ドウ云フ特別ノ講座ヲ開キ研究ヲ開クヤウナ方法ニナツテ居ルカヲ伺フノデアリマス
○山川政府委員 只今御話ニナリマシタヤウニ大學ハ國民思想ノ指導者トシテ十分活躍スベキ立場ニアリマスニ拘リマセズ、コト十數年ノ間ニ何回トナク忌ハシキ罪名ニ依ツテ起訴サレ、又ハ處罰サレタ事實ノアリマスコトハ、當局ト致シマシテ洵ニ遺憾ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、併ナガラ段々ト各帝國大學ノ學風ニ於キマシテモ、時局ノ影響モ勿論アルコトと思ヒマスルガ、東亞ノ新秩序建設ト云フヤウナコトニ付キマシテ、十分ナル貢獻ヲ致サネバナラナイト云フヤウナ氣風ガ段々ニ瀰漫シテ來テ居リマスコトハ、洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第ト考ヘテ居リマス、例ヘバ法學部、經濟學部、或ハ文學部ヲ打ツテ一丸トシテ東亞新建設ノ爲ニ、又國策ノ線ニ沿フベク一ツノ研究機關ヲ拵ヘテ、サウシテ國家永遠ノ興隆ニ寄與シタイト云フヤウナ話モ、寄リ／＼アルヤウナ譯デアリマシテ、是ニハ相當ノ豫算モ伴ヒマスコトデアリマスカラ、何時カラ實現スルカト云フコトヲ申上ゲマスコトハ困難デアリマスケレドモ、各帝國大學ニ於キマシテ只今申シマシタヤウナ意味合ヒ

ノ研究所ヲ作ルトカ、或ハ既設ノ講座デアリマシテモ、日本精神ヲ基調トシタ新シキ講座ニ色ヲ塗換ヘタイト云フヤウナ心持デ大分働イテ居ルノデアリマスカラ、此ノ機會ニ文部省ト致シマシテモ大學當局ト協議致シマシテ、段々トサウ云フ風ヲ助長シテ行キタイト思フノデアリマス、尙ホ又今日マデ比較的思想問題ト縁ガ遠イト思ハレテ居リマシタ所ノ、只今御話ノヤウナ理學部方面或ハ理學部ノ應用方面デアリマス所ノ工業部、農學部、醫學部ニ於キマシテモ、ソレ／＼今日ノ時世ニ鑑ミマシタ十分一ツ日本精神ヲ基調トシタ研究ヲ進メテ行キタイト云フ、是亦機運ニ向ツテ居ルノデアリマス
尙ホ此ノ機會ニ申上ゲテ置キタイコトハ、今日歐米諸國ニ於キマシテ各「サイエンス」ノ「レポート」ト云フモノヲ段々日本ヘ寄越サナクナツテ來テ居ルノデアリマス、是ハ學者間ニ於キマシテハ科學封鎖ト云フ言葉ヲ使ツテ居リマスルガ、日本ノ「レポート」ヲ歐羅巴ニ於テ受人レズ、歐羅巴ノ「レポート」ヲ日本ニ送ラナイト云フヤウナ狀況ガ段々ト激シクナツテ來テ居ルノデアリマス、今日ノ我國ノ自然科學方面ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルト、大體基礎トナル理學

部方面ノ學術ハ歐羅巴ヨリ受入レマシテ、多少ノ工夫ナリ多少ノ著想ニ依リマシテ、應用方面ニソレガ移サレテ居ツタト云フヤウナ實情デアリマス、然ルニ今後ハ基礎的方面ニ於キマシテモ日本獨自デ之ヲ研究シ、日本獨自ニ於テ新シキ科學ニ於ケル文化ヲ創造致シテ行カナケレバナライヤウナ情勢ニ相成ツタノデアリマス、是ハ我國學界ノ、殊ニ自然科學ノ學者ノ好ムト好マラザルトニ拘ラズ、サウ云フ情勢ニナツテ來テ居ルノデアリマス、又御話ノヤウニ自然科學ニ於キマシテモ日本精神ヲ基調トスルコトガ最も必要ナコトデアルト共ニ、今後ハ自然科學ニ於キマシテモ日本ノ學者ガ基礎學術ヨリ日本ニ於テ著々ト其ノ効果ヲ擧ゲテ行カナケレバナライ情勢ニ相成ツテ居ルノデアリマス、隨テ新設ノ名古屋ノ帝國大學ニ於キマシテサウ云フ點ヲ考慮致シマシテ、新講座ノ内容其ノ他ニ付キマシテモ十分慎重ナル手續ヲ採リマシテ、只今御忠告ノアリマシタ點ヲ能ク諒承致シテ進ンデ行キタイト思フノデアリマス

○椎尾委員 甚ダ重ネノデアリマスガ、此ノコトハ他日必ズ具體的事實トナツテ問題ヲ起スコトダト存ジマスルカラ、モウ少シ念ヲ押シテ置キタイト思フノデアリマス、

ソレハ只今御話ノアリマシタヤウナ「レポーター」封鎖、前ニハ大正ノ歐洲大戰ニ依ツテ學術文書ノ輸入ガ不可能ニナリマシタ場合、何レモ外部のカラ已ムヲ得ズ學術ガ方向ヲ變ヘテ行ツタノデアリマスガ、今日ノ場合ニハドウシテモモット自發的ニ學術ノ方向ヲ轉換ヲ行ハネバナラスモノダト存ジマス、サウシテ文科方面即チ文學部、法學部、經濟學部等ニ於テノコトハ今御話ノ通りデアリマスガ一般ニハ實科ノ方面即チ理科ノ方面ハ思想上ニモ非常ニ健全デアツテ、宜シイモノノヤウナ評判ニナツテ居ルノデアリマス、ソレハ從來ノ赤化其ノ他ノ方面ガ常ニ文科方面ニ出マシテ、理科方面ニ甚ダ少イト云フ所カラサウ言ハレテ居ルノデアリマスガ、是ハ理科ノ方面ノ方ガ直接ノ仕事、生活ノ方ニ驀ラニ行ツテ居ルカラデアリマシテ、之ヲ思想問題トシテ扱ヒマス、私共ハ理科ノ方ガ一層健全デアルカ或ハ文科ノ方ガ不健全デアルカト云フコトハ容易ニ斷定ガ出來ナイモノダト思ウテ居ルノデアリマス、即チ唯物個在的ニ物ヲ考ヘテ行クト云フコトヲ徹底的ニ考ヘテ居ルノハ理科デアリマシテ、文科ノ方ナドハ其ノ點ハ餘程ボンヤリシタモノデアリマス、勿論個人主義トカ唯物思想ト云フコトハ文科ノ

經濟ノ方ナドデモ扱ツテ居ルノデアリマス、ケレドモ、併シナガラ徹底的ニ唯物個在的ニ扱フト云フコトニ付テハ理科ノ方ガ文科ヨリモ進ンデ居ルト言ツテモ宜イト思フノデアリマス、若シサウ云フヤウナ扱ヒガ學的取扱ト致シマシテ、ソレガ唯物的ニ考察スル必要モアリ個在的ニ考ヘル必要モアリマスカラ、サウ云フ研究ノ方法デアルト云フコトニアツテハ勿論拒ムベキモノデモアリマセヌ、大イニ必要ガアリマス、併シナガラ人間ノ思想生活ヘ伸ビテ參リマスル時ニハドウナルベキモノカト云フコトニナルト、果シテ唯物個在デ宜イカ、吾々ノ生キタ思想生活ノ立ツテ居リマス事實カラ見テ、ソレマデ持ツテ來タ時ニ唯物個在ノ問題ハ問題ニナルノデアリマス、此ノ點ヲ推シテ參リマス時ニ理學ノ根本ニ於テドウ云フ風ニ人生國家ヲ扱ツテ行カト云フコトガ必要ニナルノデアリマス、私ハ過去ニ於キマシテ赤化思想ノ取扱ニ於テ法學、經濟、文學等ノ人々ガ十分ニ取扱得ナイノハ、ソレ等ノ思想ノ根柢ニ唯物個在思想ヲ持ツテ居ル爲ニ、彼等ノ唯物主義、個在主義、無神主義ヲ非難スルコトガ出來ナイ、共產主義ハ惡イトロデハ言ヒマスケレドモ、論理的ニ之ヲ徹底スルコトノ出來ナイノハ、文科

ノ人スラサウ云フ立場ニ立ツテ居ルカラ出來ナイノデアツテ、詰リ觸レナイデ居ル、ダカラ其ノ問題ニ觸レマス、ヤハリ同ジヤウナ唯物個在主義ニ墮チテ、遂ニ思想ガ惡イト言ハレルヤウニナツタノダト思ヒマス、ソコデ文科ノ方ガヨリ惡イトモ言ヘズ、理科ノ方ガヨリ善イトモ言ヘナイ、寧ロ理科即チ廣イ意味ノ理科デアリマスガ、醫學部モ理工學部等モ皆サウ云フ方面ニ付テノ研究ヲスルノデナイト、次ニ來ルモノガ經濟學部ヤ法學部ノ問題デハナクシテ、醫學部ヤ工學部ヤ、理學部ノ中ニ問題ヲ起サネバナラヌヤウニナルノダト思フノデアリマス、サウ云フ問題ガ起キテカラ今日ノヤウナ狀態ヲ呈スルコトハ洵ニ殘念デアリマシテ、ドウカ之ニ先ダツテ豫防線ヲ張ツテ、ソレゾレノ研究ヲ進メラレタイト思フノデス、其ノ點ニ付テハ何處ニモサウ云フコトヲ考ヘルノデアリマスガ、由來大學ノ行キ方ハサウ云フ點ニ引摺ラレテ行クノデアリマシテ、先ダツテ考ヘテ行クコトガ少ナイ、話ガ少シ飛ビマスガ、同ジク大學ニ關係ガアリマスカラ申上ゲマスガ、廣東ノ占領ガ出來マシテカラ、初メテ熱帶病學ノ研究所ヲ彼處ニ置クコトニナリマシタケレドモ、私共先年來申シテ居リマスヤウニ、若シ臺北

大學ヲアノ臺北ニ置カナイデ、臺南ニ置カ

レテ熱帶病學ノ研究ヲシテ、日本ガ南支進

出ノ研究準備ヲスルト同時ニ、熱帶地方ノ各

學生ヲ招集スルト云フコトガ必要デアルノ

ニ、臺北ノヤウナ熱帶病學ノ研究ノ出來ナ

イ處ニ之ヲ置イテ、内地ノ落第者ヲ集メル

ト云フヤウナ方法ニ止マツテ居ルト云フコト

ハ、大學ノ施設方向ヲ間違ヘテ居ルモノダ

ト論ジテ、現ニ醫學部ヲ彼處ヘ設ケラレマ

ス時分ニモ、其ノ建設委員ノ方ニ、是非共

其ノ方法ヲ改メラレルヤウニ懇々申上ゲタ

ノデアリマスケレドモ、周圍ノ事情デ依然

トシテ臺北ニ醫學部ヲ開カレテ、本當ノ熱帶

病學ノ研究ガ出來テ居ラスト云フコトガ、

今日日本ガ南支進出ヲスル場合ニ當ツテ、

不都合ヲ感ジテ色々ノ缺陷ヲ暴露シテ居ル

所以デアリマス、サウ云フ風ニ文教ノ施設、

學問ノ施設ガ、事件ニ先ダツテ考ヘルコト

ガ出來ズシテ、事件ガ行詰ツテ、僅ニ動イ

テ行クト云フコトハ非常ニ殘念ナコトデア

リマス、ドウシテモ全國ノ理科的ノ學術ノ

中ニ、本當ニ日本思想ナリ、國體思想ト云

フモノハ、單ニサウ云ツタ思想ヲ僅ニ學ブ

ノミデハナイノデアリマス、即チ理學ノ行

マス
ソレカラ醫學部ノ弊害ノ如キハ、私ハ
一々羅列致シタクナイノデアリマスケレドモ、
各地ノ醫學部若クハ醫科大學ニ於キマシ
テ、相當醜態ヲ暴露シテ居ルノデアリマス、是
ハ醫術ノ研究ノ仕方カラ來タバカリデハナ
イ、併シナガラ其ノ醫術ノ研究ノ仕方ガ既
ニ唯物功利主義ニ流レテ居ルト云フコトガ、
大ニ累ヲ爲シテ居ルト思フノデアリマス、
現在臨床診斷ノ力ガ無クシテ、單ニ特異ナ
ル或ル醫術ノ研究ヲシテ、學位ヲ取ツテソ
レニ依ツテ營業ヲシテ行クト云フヤウナ方
面ヘ走ルト云フコトニ大勢ガ流レテ、幾多
ノ非難ヲ受ケマスルト云フコトハ、ヤハリ
醫學研究ノ根本ニ於テ著眼點ガ誤ツテ居ル
點ガアルト云フコトヲ既ニ示シテ居ルモノ
ダト思フノデアリマス、サウ云フ點ガ今後
モウ一段ト追究サレルヤウニナル時ガ近イ
將來ニ來テ居ルノデアルカラ、ドウシテモ
其ノ弊害ノ起リマスルニ先ダツテ全體ノ學
府ガ改メラレタイト思ヒマスケレドモ、特
ニ新設ヲスルノハサウ云フ希望ヲ多分ニ持
ツテ居ルノダカラ、其ノ點ニ對シテ山川局
長サンノ如キハ直接ニ其ノ講座設立等ニ對
シテ色々御關係ヲサツテ居ツタノデアリ
マスルガ、其ノ場合ニサウ云フ問題ガドノ

程度マデ考慮サレテ居ルカト云フコトヲ、
極メテ概括デ宜イデスガ伺ツテ置キタイデ
スガ、私共ノ見テ居ル所ダケデハサウ云フ
問題ニハ殆ド觸レテ居ラスヤウニ見エルノ
デアリマスカラ、ソレヲ心配ヲシマシテ御
伺フスルノデアリマス
○山川政府委員 只今御話ノアリマシタヤ
ウナ點ハ、私ト致シマシテモ洵ニ同感デア
リマシテ、私ノ知ツテ居リマス者カラ申上
ゲマシテモ、殊ニ醫學ヲ學ンダ者デ共產思
想、或ハ赤化思想ニ感染致シマシテ、特ニ
極端ナル者ガ一二アルコトヲ承知致シテ居
リマス、サウ云フナヤウ譯デ學問ノ性質上
理學ノ應用ノ學術デアリマス所ノ學問、工
學部或ハ農學部、醫學部ノ學問ガドウ致シ
マシテモ分析的ニナリ、唯物的ニ流レ易イ
學問ノ性質ヲ持ツテ居ルノデアリマス、併
シナガラ是トテモ全部今日マデノ學問ノ研
究ノ方法ヲ變ヘテシマフト云フコトハ、私
ハ學問ノ性質上出來ナイト考ヘルノデアリ
マスルガ、併シナガラ今日マデノ研究ニ加
フルニ何カ全體的ニ、又全一的ニモノヲ見
ルト云フヤウナ研究ノ方法モ、私ハ確ニア
ルト思フノデアリマス、又御話ノヤウニ單
ニ或ル一定ノ期間學生ニ特別講演ヲサセル
トカ、或ハ又特ニ或ル方面ノ專門家ヲ聘シ

テ多少長期ノ講習ヲ受ケルトカ云フコトモ、
勿論學生ノ思想上ニ於キマシテ多少ノ裨益
スル所ハアラウト思ヒマスガ、要スルニ
毎日々々ノ研究ノ仕方、又先生ノ思想傾向
ト云フモノニ影響サレル點カラ申シマナラ
バ、前ニ申シマシタヤウナ特別講演或ハ多
少長期ノ講演ト云フモノハ效果ガ薄イヤウ
ニ思フノデアリマス、尙ホ醫學部ニ於キマ
シテハ今日ノ單科大學ノ講座數ト違ヒハナ
イコトニナツテ居リマスガ、理工學部ニ於
キマシテハ三十七講座アルノデアリマス、
此ノ講座ヲ如何ナル内容ニ依ツテ構成スル
カト云フコトハ、今後創立委員會ノ問題デ
アリマス、尙ホ私ノ考ヘマスノハ研究ノ方
法モ勿論御話ノヤウナ事情ハアリマスガ、
之ニ携ハル教授其ノ人ヲ得ルカドウカト云
フコトモ、非常ニ學生ニ取リマシシテハ思
想的ノ影響カ多イノデアリマス、實驗室ニ
於テ「フラスコ」ヲ振りマス間ニモ、先生ノ
人格的影響ト云フモノハ非常ニ大キク學生
ニ勵クノデアリマス、教授ノ人選其ノ他ニ
付キマシテモ御話ノヤウナ點ヲ十分考慮致
シマシテ、出來ルダケ立派ナ先生ヲ得ルヤ
ウニ心掛ケタイト考ヘマス
○椎尾委員 モウ一ツ違ツタコトデ御伺シ
テ置キタイノデアリマスガ、ソレハ名古屋

ノ大學ナドハ土地柄實際的ナ方面ニ發達シ得ルダラウト云フコトデ、特ニ希望サレテ居ルノデアリマス、學術ハ單ナル理論ヨリモ應用ニ、其ノ應用ガ更ニ日本ノ特色ニ基キマシテ發達スルヤウニ研究サレネバナラスノデアリマス、即チ分リ易イ例デ言ヒマスレバ、「ガソリン」ノナイ日本ガ「ガソリン」ヲドシ、使フ動力ノ生活デナク、「ガソリン」ノナイ日本ダト云フコトデノ研究ガ進シテ居ツタナラバ、現在ヤツテ居ル木炭動力ヨリモ、又西洋ノ冶金ニ從ツテ居ル製鐵デナクシテ、日本ニ豊富ナル材料ニ依ツテ製鐵ヲスルト云フコトニ進シテ居ツタナラバ、今日ノ惱ミヲヨリ減ズルコトガ出來ル、サウ云フヤウニ廣クハ東洋、特ニ日本、又ソレヲ若干利用致シマシタ名古屋ノヤウナ方面ニ於テ、若干ノ特色ハ發達スルダラウト思ヒマスケレドモ、併シ其ノ點ニ關シテ根本的ニ學術ガ單ナル理論ヨリ應用ニ、單ナル應用ヨリモソレガ本當ニ實際ニ即シタ人生ノ改善ニ向ツテノ研究デアルト云フコトニ期待シテ居リマスルモノヲ充スヤウナ、何カ御計畫ガアツタノデアリマスカ、又ソレニ關聯シテ居リマスルコトハ、工業ノ發達ハ農業ノ十分ニ發達ト相俟ツモノデアツテ、現在東海地方ノ工業ノ發達ヲ

容易ナラシメテ居リマスルノハ、其ノ方面ノ農業ノ發達シテ居ルコトガ與ツテ力ヲ爲シテ居ル、ソレハ生活ノ安定ニシマシテモ、思想ノ堅實ニシマシテモ、勤勉ノ良律ニシマシテモ、總テ農業ノ發達ガ基礎付ケテ居ルノデアリマス、サウシテ又農業ノ發達モサウ云フ商工業ノ發達ト相俟ツコトニ依ツテ、特殊ノ發達ヲ見ルコトガ出來ルノデアリマス、斯ウ云フ意味ニ於テ商工方面ノ途ニ於テハ、工業ノ、特ニ工學研究ニ俟ツコトノ大ナルコトハ分ツテ居リマスガ、商業ハ必ズシモ商學部ト云フ大學ハナクテ宜イト云フ論ニハ相當共鳴シ得ル點ガアリマサルガ、農學ノ日本の發達ト云フコトニ付テハ餘程必要ガアリ、又地方的發達ト云フコトニモ必要ガアリマスノデ、農學部ノ開設ト云フコトハ相當ノ重要性ヲ持ツテ居ルモノデアルト思フ、殊ニ日本ガ東亞ノ建設ヲシマスルニ付テハ、滿洲支那ニ互ル所ノ農學ノ指導ト云フコトガ一ツノ重要性ヲ持ツモノダト思フノデアリマス、更ニ又世界ノ本當ノ平和ト云フコトガ、工業的生活ニ依ツテハドウシテモ消費者ヲ把握シマス上カラ衝突ガ起リマスルガ、農業的生活ノ發達ト云フコトハ、平和ナル國際關係ヲ建設スル上ニ力ガアルトモ思フノデアリマス、サ

ウ云フヤウナ意味カラ致シマシテ、農學部ニ對スル新シイ研究ト發達ガ必要デアルト存ジマスルガ、此ノ名古屋帝大ノ前途ニハ、只今ハ御計畫ノ通りデアルト云フコトハ承知シテ居リマスケレドモ、近キ將來ニ於テ農學部ヲ増設スルト云フ幾ラカノ意圖ヲ持ツテ居ナケレバナラスト思フ、サウ云フ意圖ヲ持ツトシマスレバ、現在カラ敷地其ノ他ニ對シテハ相當ノ準備ガナケレバナラスト思フ、ソレデナクテモ是カラノ大學研究モノト思フノデアリマスルカラ、十分ナ上ニモ十二分ノ準備ガナケレバナラスト思フノデアリマスガ、私ハ現在ノ程度デハ足りナイノデハナイカト思ヒマス、是ハ經濟事情カラ已ムヲ得ヌト云フ御考デアルカ、サウ云フ點ヲ考慮セラレテモ、アレ宜イト云フ御考デアツタカ、サウ云フ點ヲ併セテ御伺シテ置キタイト思ヒマス

○山川政府委員 初メノ點ハ、實ハ名古屋帝國大學創立準備委員會ト云フモノガ出來テ居リマシテ、ソレニハ吾々文部省或ハ愛知縣廳ノ役人トカ、理科、工科ノソレノ専門家ヲ其ノ内容ト致シテ居ルノデアリマスガ、第一點ハ、理工學部經營ノ方針トシテ實際ニ即スルト云フコト、應用ノ效ク人間ヲ作ルト云フコトニ付テ、何カ配慮シタカドウカト云フ御尋ノヤウニ拜承致シタノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、東京ニゴザイマス工業大學ハ稍、其ノ趣ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマスガ、今日マデノ工學部ハ、一年ニ入りマシテ稍、専門的ニ分レ易クナツテ居ツタノデアリマス、詰リ高等學校ヲ卒業致シマシテカラ、一年ニ入りマスト直グ専門學科ニ飛ビツクト云フヤウナ狀況デアツタノデアリマス、併シナガラ今回出來マス名古屋ノ理工學部ニ於キマシテハ、第一學年ハ基礎的ノ學科ニ十分力ヲ入レル、第二學年ニナリマシテ稍、専門的ノ學科ヲ教ヘル、第三學年ニナリマシテ、ソレゾレ専門ノ學科ニ分屬致シマシテ十分ナル教授ヲ致サウト云フ風ナ方針ヲ採ルコトニ考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ方針デ參リマス、或ハ今日ノ會社、工場ヘ入りマシテ、御話ノヤウニ直グニ役ニ立ツト云フ點ニ於テハ、稍、御不滿ノ點ガアルカモ知レマセヌガ、一年ノ時ニ基礎學科ニ十分力ヲ入レテアリマス關係上、大學ヲ卒業致シマシテ五年十年經テマス間ニ、益、其ノ知識ナリ技能ナリヲ向上サセルコトガ出來マシテ、卒業後ノ自己ノ修練ト云フコトニ非常ニ工合ガ好イノデハナイカ、コンナ風

ニ考ヘマシテ、只今申上ゲマシタヤウニ一年二年三年ノ取扱ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

第二ノ點ハ將來農學部ヲ設置スル意思ガアルカドウカ、又設置スルトスレバ今日ノ計畫デハ規模ガ狹小デアルヤウニ思フガドウカト云フヤウナ御尋デアツタカノヤウニ思フノデアリマス、御承知ノ通り農學部ガ、殊ニ理科的學問ノ應用ト致シマシテ必要デアルコトハ申スマデモナイコトデアリマス、今日ニ於キマシテモ東京、京都ヲ初メ農學部ノ設置ヲ見テ居ル帝國大學モ少クナイノデアリマス、勿論名古屋ノ帝國大學ニ於キマシテモ、將來ハ相當學部ヲ備ヘタ綜合大學ノ實ヲ學ゲタイト考ヘテ居リマスコトハ當然ノコトダト思フノデアリマス、唯御話ノヤウニ經費ノ關係等モアリマスシ、又將來ハ先刻モ御話致シマシタヤウニ、理工學部ヲ更ニ工學部、理學部ト獨立ニ學部ニ致シタイト云フ希望モ持ツテ居リマスヤウナ關係デアリマシテ、其ノ後ニ來ルモノハ或ハ農學部デハナカラウカト想像致シテ居ルノデアリマス、尙ホ今日ノ金額ノ九百万圓、敷地ノ十八万坪ハ勿論醫學部、理工學部ノミノ經費デアリマシテ、將來或ハ増設致スコトニ相成リマスカモ知レマセヌ所ノ農學部ノコ

トハ其ノ中ニ入ツテ居リマセヌ、農學部ヲ假ニ作ルト致シマスナラバ、廣大ナル實習地ヲ要シマスシ、又御承知ノ通り演習林ナドモ要シマスノデ、今日ノ規模或ハ豫算ニ於キマシテハ到底實現スルコトノ出來ナイモノダラウト考ヘマス

○椎尾委員 色々明細ナ御答辯ヲ得マシタガ、サウ云フ方面ニ於テ出來マスル大學ヲ中心トシテ、此ノ時局ニ應ジ、本當ノ國民思想ヲ導イテ行ク中堅人ノ出來マシヤウニ、ヨリ以上ノ御配慮ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、關聯シテ一ツ特ニ伺ヒ且ツ申上ゲテ置キタイトハ、ドウ致シマシテモ日本ノ學徒ノ研究態度、修學目標等ガ變ツテ行クベキモノダト存ジマス、ソレニ付テ大學ノ行キ方ヲ直シマスルニハ、ドウシテモ高等學校ノ行キ方ヲ直ス、學制制度ノ問題ハ別デアリマスケレドモ、現ニ在學シテ居リマス若人ノ著眼點及ビ其ノ方法ヲ改メシメルト云フコトガ非常ニ必要ダト思フノデアリマス、從來ノ英佛等ノ羅馬法ノ研究ニ伴フ法ノ研究デナクシテ、日本法ノ研究ヲスルノダト云フコトノ指示ヲ與ヘルトカ、或ハ歴史、人文ニ關スル考ヘ方ヲ改メシメルトカ、理學部ニ於テモ、亦理科ノ方ノ各學部ニ於キマシテモ、サウ云フ點ニ於テ高等

學校ノ學科ヤ制度ハ假ニ今ノ儘ニ致シマシテモ、教授全體ノ著眼指導ヲ改メテ行クト云フコトガ大變必要デアツテ、其ノ點カラ注意シテ行キマスレバ、自然ノ形デ大學ノ學風モ改マリ、大イニ改革モ出來ルコトト思フノデアリマスガ、何レ高等學校長會議等ニ於テ相當論及サレテ居ルコトト存ジマスケレドモ、サウ云フ點ニ十分御著眼下サレテ居ルカ、或ハ尙ホ一層スル必要ガアルト御考ニナルカト云フコトヲ承レレバ伺ヒタイト思ヒマスガ、ドウカサウ云フコトヲ願ヒタイト思ツテ居ルノデアリマス

○山川政府委員 簡單ニ申上ゲマスガ、昭和十二年度カラ高等學校ノ學科要目ノ改正ヲ致シテ居リマシテ、今日マデ五科目ノ要目ヲ改正致シタノデアリマス、其ノ改正ノ主眼點ハ何處マデモ日本精神ヲ基調トシテ內容ノ改正ヲ致シタ譯デアリマシテ、只今論理ト心理ノ要目改正ヲ實行中デアリマス、段々ト今日ノ制度ニ於テ內容ヲ改メ得ベキ所ヲ改メヨウト云フ努力ヲ續ケテ居リマス

○塚本委員 私ハ名古屋帝國大學ノ創立ニ付テ極ク卑近ナ二三ノ點ニ付テ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、今度ノ名古屋帝國大學ノ創設ノ費用ハドレ程掛リマセウカ、其ノ中デ地元ノ負擔ニ歸スル部分ハドレ程デゴザイマセウカ

○山川政府委員 地元ノ寄附金ハ九百万圓デアリマス、詰リ地元ニ於テ負擔スルモノハ新營費、設備費、ソレカラ敷地ハヤハリ地元ノ寄附ニナツテ居リマス、ソレデ將來國家ガ負擔スルモノハ經常費ノミデアリマス

○塚本委員 サウ致シマス、經常費ハ總テ國家ノ御負擔ニナルト考ヘテ宜シウゴザイマス

○山川政府委員 其ノ通りデアリマス

○塚本委員 此ノ九百万圓ノ創設費ノ中、今度綜合大學ヲ建設サレルニ付テ、現在ノ醫科大學ノ內容充實モ併セテサレルト云フコトデアリマスガ、其ノ方ニ廻ル費用ハドレ程デアリマス

○山川政府委員 實ハ九百万圓ノ寄附ニ付キマシテハ、理工學部ノ建設ト云フコトデ九百万圓ト決ツテ居ルノデアリマス、ソレニ先程申シマシタ敷地十八万坪ト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、唯實ハ詳シク御尋ヲ戴カナイ方ガ却テ宜イノデハナイカト思フノデアリマスガ、九百万圓ノ豫算ハ、只今申シマシタヤウニ理工學部ノ建設ト云フコトデアリマスガ、文部省ガ初メ大藏省ニ要求シタ金額モ實ハ略、九百万圓ナノデ

アリマシテ、其ノ中ニハ御話ノヤウナ醫學部ノ充實ト云フ經費モ併セテ大藏省ニ要求致シタヤウナ譯デアリマスガ、九百萬圓ハ理工學部ノ建設ダケト云フコトニ今度ノ豫算ニハ相成ツテ居ル譯デアリマス

○塚本委員 費用ノコトニ付テハ詳シク聽カナイヤウニシテ吳レル方宜イト云フコトデアリマスカラ、私ハ之ヲ御尋スルコトヲ差控ヘマス、ソコデ私ノ考ヘル所ニ依リマス、獨逸ガアノ歐洲大戰後ノドン底カラ急激ニ立直ツテ參リマシタノハ、無論「ナチス」ヲ中心トスル「ヒットラー」ノ政治的手腕モ有力ナル原因デアツタデアリマセウガ、一番根本ノ原因ハ、ヤハリ獨逸ノ優レタル科學ノ力デアツタト私ハ存ジマス、更ニアノ勇猛果敢ナ「エチオピア」ノ軍隊ガ脆クモ伊太利ノ軍隊ニ敗レマシタノモ、「エチオピア」ニ科學ガナクテ伊太利ノ科學ニ敗レタト見ルノガ至當ダト考ヘマス、現在ノ日本ト支那トノ關係ニ於テモ同様ノコトガ考ヘラレルノデアリマセウ、幾ラ資源ガアツテモ科學ガナケレバ資源ガナイト同ジコトデアルガ、資源ガナクテモ科學ガアレバ或ル程度マデ資源ガアルト云フコトニナルト思フノデアリマス、日本ガ今後長期建設ヲスルニ付キマシテハ、其ノ基礎ハドウ

シテモ優レタル日本ノ科學デナケレバナラスト思ヒマス、隨テ科學國策ノ振興ト云ヘバ、是ハ日本ニ取ツテ最も重要ナル仕事デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、隨テ今度名古屋ニ帝大ヲ創設サレルニ當リマシテモ、先ヅ以テ科學ノ基礎ヲ成ス所ノ理學部ヲ設置サレルト云フコトガドウシテモ當然デアル、私ハ斯様ニ考ヘマスガ、此ノ地元ノ要望ガ其ノ儘容レラレナクテ、工學部トシテ理學部ヲ併セテ同時ニ設置サレナクテハナラスト思ヒマス、ソレガ理工學部トシテ設置サレタコトハ、地元ノ甚ダ遺憾トスル所デアアルノミナラズ、我國ノ現狀カラ考ヘテ私ハ洵ニ遺憾デアルト考ヘマスガ、此ノ點ニ對スル當局ノ御考ハ如何デアリマセウカ

○山川政府委員 只今御話ノアリマシタヤウニ、今日ノ科學ノ進歩カラ見テ最も大切ナモノハ基礎醫學デアルト云フコトハ只今御述ニナツタ通デアラウト考ヘルノデアリマス、又醫學部ノ應用部門デアアル工業部ト理學部トノ關係ハ不可分ナルモノデアルトサヘ吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ只今御話ノアリマシタヤウニ、工學部ガ出來テ理學部ガ成立致シマセヌデシタコトハ、吾々當局トシテモ極メテ遺憾ニ考ヘ

テ居ルノデアリマス、併シ財政上其ノ他ノ都合ニ依ツテ理工學部トシテ工學部ノ内容ヲ持ツモノダケ成立致シタノデアリマスガ、今後當局ノ努力ニ依リマシテ一日モ早く理學部ノ出來ルヤウニ盡力致シタイト考ヘテ居リマス

○塚本委員 ドウカ只今ノ御言明ノヤウニ一日モ早く理學部ノ立派ナモノノ出來ルヤウニ御配慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ日本ノ將來ノ情勢ヲ考ヘマス、大都市ノ經營ヲシテ參リ、大都市ノ産業ヲ進メテ行クニハ、ドウシテモ平和産業ト軍需産業ノ兩建デ行カナイト、都市ハ今後立ツテ行クコトガ出來ヌノデハナイカト私ハ考ヘマス、ソコデ名古屋ト云フモノヲ眺メテ見ルト、御承知ノ通り平和産業モ相當發展致シテ居リマスガ、同時ニ軍需産業ニ付テモ全國ニ於ケル有數ノ産業地デアリマス、更ニ近ク大規模ナ兵工廠等モ設置サレルト云フヤウナ情勢デアリマスガ、今回御設置ニナル工學部ノ中ニ造兵科ト申シマスカ、兵器科ト申シマスルカ、サウ云フヤウナ科ノ設置ハアリマセウカ、如何デアリマスカ

○山川政府委員 只今マデノ豫定ト致シマシテハ機械學科、電氣學科、應用化學科、金屬學科、航空學科、是ダケヲ置カウト考

ヘテ居ル次第デアリマス、御話ノヤウナ造兵ト云フヤウナモノハ學科トシテハナイノデアリマスガ、併シ航空學科ト云フモノハ、御承知ノ通り一部分ハ機械學科ノ變形デアリ、一部分ハ造兵造船ノ變形致シタモノデアリマスカラ、將來航空學科ガ出來マシタ時ニハ、ヤリヤウニ依ツテハ、併セテ研究ヲ進メテ行クコトガ出來ルト考ヘテ居リマス

○塚本委員 先程椎尾サシカラノ御意見ガアリマシタガ、名古屋ガ中部地方ニ於ケル工業ノ中心地デアリマスルト同時ニ、周圍ニ廣イ農業耕地ヲ控ヘマシテ、東海ニ於ケル農業ノ中心地デモアルノデアリマス、隨テ今回帝大ガ設置サレマスニ付キマシテ、農科大學ヲ、是非設置シテ貰ヒタイト云フコトガ、アノ東海一圓ノ方面カラ政府ニ陳情サレタコトモ御承知ノ通りデアリマス、所ガ當時ドナカラ出タ意見デアリマシタカ、斯ウ云フコトヲ承ツタノデアリマス、農業ト云フモノハ氣候風土等ノ影響ヲ受ケルコトガ極メテ大キナモノデアアル、所デ今後ノ日本ノ農科大學ノ使命ト云フモノハ、唯日本内地ノ農業ヲ發展サシテ行クニハ既設ノ農科大學ヲ以テ足レリトスル、之ヲ擴充スルナラバ、ソレデ宜シイ、今後ノ日本

ノ農科大學ノ使命ハ、滿洲ナリ或ハ支那ナリノ農業ヲ開發スルト云フ所ニ重點ヲ置カ
ナクテハ意味ヲ成サヌノダ、隨テ滿洲、支
那ノ農業ヲ開發スルニ付テハ、氣候風土ノ
違フ内地ニ於テ大學ヲ設ケ、サウシテ向フ
ニ演習林ヲ置イテ研究スルト云フヤウナコ
トヨリハ、手ツ取り早く奉天ナリ或ハ濟南
ナリ、北京ナリ、現地ニ大學ヲ建設シタ方
ガ宜シイ、隨テ内地ニハ最早農科大學ヲ新
設スルト云フ意向ヲ文部省ハ持タヌ、現在
ノ施設ヲ擴充スルダケニスル意向ダ、隨テ
名古屋ニ農科大學ヲ置クト云フヤウナコト
ハ、此ノ場合出來スト云フヤウナ御意向ガ
アルヤウニ承ツタノデアリマスルガ、果シテ
文部當局ニ左様ナ御意思ガゴザイマセウカ
○山川政府委員 農學部ヲ現地ニ置クト云
フヤウナ考ハ、文部省ト致シマシテ今日マ
デ持ツテ居ラナイノデアリマス、又農學部
ハ既設ノ施設ダケデ宜シイノデ、將來新シ
イ處ニ農學部ハ置カナイ方針デアルト云フ
コトモ決ツテ居ナイノデアリマス、先程椎
尾サシノ御質問ニ對スル御答辯トシテ申上
ゲマシタヤウニ、今日文部省ニ於キマシテ
名古屋ニ農學部ヲ置ク計畫ハナイノデアリ
マスガ、併シ名古屋ニ綜合大學トシテノ帝國
大學ガ近く出來マスナラバ、理科ノ應用デ

アル所ノ工醫、ソレカラ理ガ出來マスナラ
バ、農モ將來ノ問題トシテハ必要デハナイ
カト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、今
日其ノ計畫ガ文部省ニアルカト仰セラレマ
スト、ソレハナイノデアリマスガ、サリト
テ今御話ノヤウニ將來新設ノ農學部ハ造ラ
ヌ方針デアルト云フヤウナコトハ、全然ナ
イノデアリマス
○塚本委員 大學ヲ造リマスニ付テ一番大
切ナノハ申スマデモナク、大學總長初メ教
授ノ人選ト云フコトニアルト思フノデアリ
マス、其ノ點ニ付テハ文部當局ニ於テ十分
御確信ガアルト存ジマスルガ、尙ホ一應承
ツテ置キタイト思ヒマス
○山川政府委員 御話ノヤウニ大學ニ於キ
マシテ根本ヲ成シマスモノハ、教員ニ其ノ
人ヲ得ルカ否カニアルコトハ御話ノ通りデ
アリマス、總長以下ノ人事ニ付キマシテハ
文部省ト致シマシテハ最高ノ人事デアリマ
ス、隨ヒマシテ慎重ニ大臣ニ於テ考慮サレ
マシテ、最モ適當ナル人物ヲ舉ゲルコトニ
相成ラウト考ヘマス
○塚本委員 昨年大學其ノ他ニ二三航空科
ヲ設置サレマシタ際ニ、航空科ヲ設置ハシ
タガ、偕テ教授ノ人選ト云フコトニナリマ
シテ、人ガナイ爲ニ其ノ學校當局ハ非常ニ困

ツタ、其ノ結果ハ遂ニ民間ノ航空會社ノ技
師等ニ手ヲ掛ケテ、サウシテ所謂引拔キヲ
ヤル、サウ云フコトガ起リマシタガ爲ニ、
民間ノ航空會社ハ大恐慌ヲ來シタト云フコ
トハ當局ノ御承知ノ通りデアリマス、隨テ
今日ノ事態ヨリ考ヘテ見マシテ、特ニ工科
理科等ニ於テ優秀ナル教授ヲ獲得スルト云
フコトハ、餘程困難ナコトニ相違ナイト私
共ハ思フノデアリマス、併シナガラ立派ナ
教授ガ得ラレマセヌヤウデアリマスレバ、
大學ヲ造ツテモ殆ド意味ヲ成サヌノデアリ
マスカラ、ドウカ新ニ折角出來マス以上ハ、
其ノ點ニ十分ニ意ヲ用ヒラレマシテ、新ニ
生レマスル大學ガ颯爽タル意氣ヲ以テ陣容
ヲ整ヘテ出發ノ出來マスヤウニ十分一ツ御
配慮ヲ戴キタイト思ヒマス、私ノ質問ハ是
デ終リマス
○高橋委員長 外ニ御質問ハゴザイマセヌ
カ
○太田委員 私ヨリ質疑打切ノ動議ヲ提出
致シマス
○高橋委員長 太田君ノ動議ニ御異議ゴザ
イマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○高橋委員長 ソレデハ質疑ハ是ニテ打切
リ、終了スルコトニ致シマス、本日ハ是ニ

テ散會シ、明後二十二日午後一時ヨリ開會
ノコトニ致シテ本案ヲ上ゲタイト存ジマス
カラドウゾ御出席ノ程ヲ御願致シマス
午後三時散會